

井川町における出稼者の実態

船木章悦* 吉田タカラ* 沢部光一*
高桑克子* 児島三郎* 鷲谷嘉兵衛**

I はじめに

秋田県の県外出稼者は昭和37年を境に急増し、昭和46年度では64,000名にもおよんでいる。特に問題としてとりあげなければならないのは、出稼者の出稼先での死亡である。

その出稼死亡者の73%が、脳・心事故によるものであり、出稼者の健康管理上大きな問題となっている。

そこで我々は、その程度の循環器疾患を有する人たちが出稼ぎに出ているのか、出稼先での自己の健康管理をいかにしているかを調査し、出稼先における健康管理

のあり方を検討する。

II 調査対象および方法

昭和38年度から毎年循環器集団検診を行い、基礎資料の完備している、南秋田郡井川町の出稼者を対象とした。

昭和48年度は、現地における循環器検診とし、表1のとおり東京方面出稼者41名の検診を行なった。表2には検診班員およびその分担を示した。

表1. 出稼者 検診実施表

1. 調査地区 南秋田郡井川村出身の東京方面出稼者
2. 実施人員 41名
3. 実施期間 12月10日～13日
昭和48年12月10日～13日 秋田県衛生科学研究所

日	曜	午前 午後	会 社 名	検診 人員	住 所	電 話
10	月	前後	東京出稼相談所において打ち合せ 大五 盛建 工運 業設 KK 山 タ ロ ク 士 建 シン KK KK	3名 3名	秋田県東京出張所* 東京都太田区南馬込1-32-5 〃 板橋区赤塚新町3-16-4	03-261-0953 03-771-7206 03-975-1547
11	火	前後	山 タ ロ ク 士 建 シン KK KK	12名 7名	神奈川県老名市今泉517 〃 相模原市宮下3-15-3	0402-32-1248 0427-71-8106
12	水	前後	奥 山 建 設 KK 成 田 班	9名	〃 藤沢市本鶴沼5-7-22	0466-23-4019
13	木	前後	栄 技 工 業 KK	7名	埼玉県大宮市三橋6-900	0486-24-1608

計41名 *東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館

表2. 検診班の人員および分担表

区 分	秋 田 県 衛 生 科 学 研 究 所	井 川 村	出稼対策室	東京における協力医療機関
受付		1 保険衛生課長		信 愛 病 院 東京都清瀬市梅園2-5 0424-11-3211
問診 身長と体重計測				1 事務員
検尿とHb検査	1 船木技師			
栄養調査と指導	1 菊地科長			
労働状態と生活環境指導			1 指導員	
採血				1 看護婦
心電図検査				2 技師 看護婦
診察と総合指導	1 所 長			1 副院長
慰問		2 村長と秘書		
マイクロバス・運転手				1 運転技師
計	3	3	1	6

検診班=13名

*秋田県衛生科学研究所

**井川町役場

49年度は、現地における血圧測定および、労働状況と生活状況の調査を行なった。表3のとおり東京方面出稼者46名である。

50年度は、正月帰郷時における37名の血圧測定を行なった。

表3. 出稼者検診実施表

(昭和49年12月7日～9日)

月/日	(曜日)	午前 午後	会社名	検診人員	住所	電話
12/7 (土)		午前	奥山建設K.K.成田班	9	藤沢市本町2丁目10-2	TEL 0466-23-4019
		午後	タクシン K.K.	6	相模市宮下3-15-3	TEL 0427-71-4424
12/8 (日)		午前	英技建 K.K.	6	大宮市三橋6-900	TEL 0486-24-1608
		午後	永島建設 K.K.	13	大宮市小町1450-2	TEL 0486-44-3684
12/9 (月)		午前	ゴヨ一建設	7	板橋区赤塚新町3-16-4	TEL 03-975-1547
		午後	大進建設	5	練馬区平和台	TEL 0422-53-5605
検診受診人員計				46名		

業務分担 所長：診察，総合指導
船木：問診，その他

Ⅲ 調査結果および考察

A. 井川町の概況

昭和47年井川村の総人口は6,540人で、総世帯数1,418(1世帯4.6人)であり、農家人口は5,180人で、農家世帯数1,014(1世帯5.1人)で、農家人口が79.2%を占める平地農村である。

登録県外出稼者は冬型が主である。その人数は141名、うち女性が15名である。

この141名の世帯について、経営耕地をみると、20.6%は経営耕地がなく、70.9%は経営耕地が199a未満の農家である。200a以上の経営耕地の農家世帯はわずか8.5%を示した。

表4. 経営耕地規模別出稼者数

区分	水田耕作面積				計 (a)
	なし	1~99	100~199	200~	
人数	29	53	47	12	141 (人)
率	20.6	37.6	33.3	8.5	100 (%)

定された管理区分である。年齢は23才から71才までで、その平均は49.7才であった。特に注目されるのは、管理区分Ⅱの要指導とⅢの要治療の人たちが27.4%も占めていることである。

作業内容は紡績業に働く9名の女性を除いては、全員が建設業とその関連企業、または、その下受けである。

表5. 出稼者の年齢分布と検診受診者の年齢分布

年齢	区分	例数	地元の検診を受診した者%	
			受診した者%	地元の検診を受診しなかった者%
20~29		9	0	9 100.0
30~39		21	18 85.7	3 14.3
40~49		41	33 80.5	8 19.5
50~59		48	40 83.3	8 16.7
60~69		21	21 100.0	0
70~		1	1 100.0	0
計%		141 100.0	113 80.1	28 19.9

表5は出稼者の年齢分布であり、表6は出稼者が、地元で行なった循環器検診を受診した成績にもとづいて判

表6. 地元の検診で判定された循環器管理区分

区分 年齢	例数	管 理 区 分					Ⅱ・Ⅲ(%)
		0	I	Ⅱ	Ⅲ		
20～29							
30～39	18	8(1)	5	2	2	4	22.2
40～49	33	14	8(1)	6	3(1)	9(1)	30.3
50～59	40	19(1)	9(1)	5	4(1)	9(1)	25.0
60～69	21	8(3)	3	1(1)	5	6(1)	33.3
70～	1	1					
計	113	50(5) 48.7	25(2) 23.9	14(1) 13.3	14(2) 14.1	28(3) 27.4	

() 内は女性

(注) 0 異常なし

I 経過観察

Ⅱ 要指導 (要注意)

Ⅲ 要治療 (要安静と入院加療を含む)

B. 調査結果について

1. 出稼の目的とその期間

出稼の目的については、表7に示すとおりである。その99%の人たちが生活に必要な資金を得るためである。

出稼期間は、刈り入れの終わった11月1日から耕作の始まる3月31日までの5か月間が77%、4月30日までの6か月間が22%である。

表7. 出稼目的と就労期間

イ. 生活資金を得るため、	75人	86.2%
ロ. 経営資金を得るため、	1人	1.1%
ハ. 借金を返すため	3人	3.5%
ニ. 小使いを得るため	1人	1.1%
ホ. (イ)と(ロ)の両方のため	7人	8.0%
計	87人	99.9%
11月1日～3月31日まで	67人	77.0%
11月1日～4月30日まで	19人	21.8%
その他	1人	1.1%

2. 出稼先の職種と作業内容

職種は土木建設が主体であり、作業内容は表8に示すとおり、その80.6%は道路建設工事作業であった。

表8. 出稼先職種と作業内容

<昭和48年度>

1. 下水道管布設のための堀削作業	22名	53.7%	} 33名 80.6%
2. 下水道管布設の現場整理、片付け	2名	4.9%	
3. 道路建設工事	9名	22.0%	

4. 道路建設工事、事務	1名	2.4%
5. 建築鉄材の電気溶接と切断	7名	17.0%
計	41名	

<昭和49年度>

1. 土木工事コンクリート流し	17名	37.0%	} 37名 80.7%
2. 道路工事 (コンクリート流しやアスファルト舗装)	16名	35.0%	
3. 下水道工事	4名	8.7%	
4. 下水道工事場の炊事婦	2名	4.3%	
5. 建築用鉄骨ブロックにコンクリート流し	6名	13.0%	
6. 自動車運転手	1名	2.1%	
計	46名		

3. 勤務時間・超過勤務時間と賃金

勤務時間は、昭和48年度実働平均8時間。

昭和49年度は、実働平均9.5時間である。超過勤務の状況は表9のとおり、昭和48年度では、調査した出稼者41名のうち48.8%のものが早出、早出と残業、深夜勤務等の超過勤務を行っていた。ところが、昭和49年度では、97.8%のものが超過勤務を行なっていることは興味深い。

表9. 勤務時間と超過勤務時間

区 分	年 度	
	昭和48年度	昭和49年度
例 数	41人	46人
時間外勤務なし	9	1
月に2～3回(1回1～2時間)	7	0
月に5～6回(1回1～2時間)	5	0
毎日早出1時間	14	30
毎日早出1時間と残業1時間	5	13
深夜勤(19.30～4.30)	1	0
炊事婦としての勤務時間	4.00～19.30	1
〃	5.00～18.00	1

昭和48年度1日平均勤務時間 7:00～17:00

現場移動休憩等の拘束時間を含む

昭和49年の賃金は、昭和48年のオイルショックによる物価上昇で15%から20%の増額であった。昭和48年度は4,000円～4,700円/日。700円～750円/時であったが、昭和49年度は4,800円～5,400円/日、800円～900円/時となった。

4. 血圧値

図1は最大血圧および最小血圧の平均値と±1SDの範囲を示した。

表10では、検診受診者の血圧値をもとにして、血圧値別区分を示した。表より全例でみると、正常血圧を示した者が43.4%、境界域高血圧を示した者が27.0%、高血圧を示した者は29.5%であった。

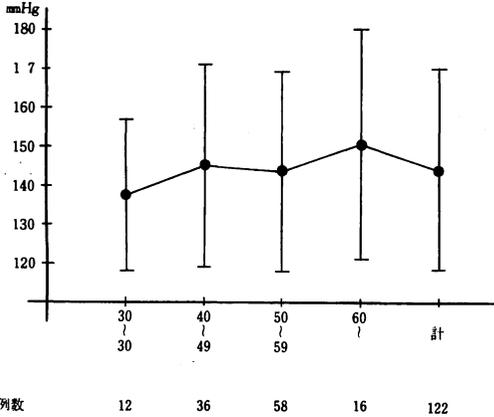


図1. 出稼検診者の最大血圧と最少血圧
縦線は1SDを示す

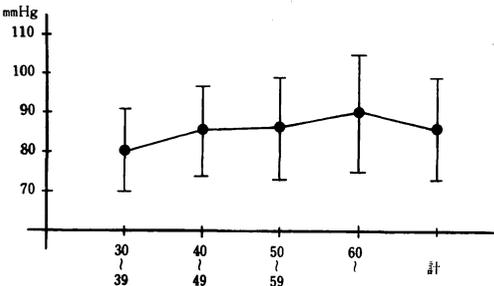


表10 検診受診者の血圧値別分布

年齢	例数	正常血圧%	境界域高血圧%	高血圧%
30~39	12	6 50.0	4 33.3	2 16.7
40~49	36	15 41.7	9 25.0	12 33.3
50~59	58	27 46.6	15 25.9	16 27.6
60~	16	5 31.3	5 31.3	6 37.5
計	122	53 43.4	33 27.0	36 29.5

5. 高血圧者の出稼先における受療状況

出稼先で検診を行なった87名のうち73名は地元で行なっている循環器検診を受診していた。その成績を表11に示す。

すなわち、73名のうち9名のものがⅢの要治療と判定されていた。この要治療者9名のうち7名は出稼先においても受療・服薬を継続していたが、1名は出稼先から中止した。残りの1名は治療放置者であった。

地元で行なっている循環器検診を受診していなかった14名のうち9名は出稼先の検診で高度高血圧であることが判明した。この9名のうち1名のみが治療の必要を自覚しており、受療・服薬を継続していた。

表11. 現地で行なった検診受診者の
年齢分布と循環器管理区分

年齢	例数	管理区分				
		0	I	II	III	II・III(%)
30~39	10	8			2	2 (25.0)
40~49	19	9	4	4	2	6 (31.6)
50~59	35	15	7	9	4	13 (37.1)
60~	9	3	2	3	1	4(44.4)
計	73	35	13	16	9	25
(%)	(100.0)	(47.9)	(17.8)	(21.9)	(12.3)	(34.2)

表12. 地元の検診で要治療と判定された者の受療状況

年齢	管理区分	Ⅲ			
		対象者	A	B	C
30 ~ 39		2	2		
40 ~ 49		2	2		
50 ~ 59		4	2	1	1
60 ~		1	1		
計	%	9	7	1	1
		100.0	77.8	11.1	11.1

(注) A 継続受療服薬
B 一時的受療服薬または放置
C 出稼に来てから中止

しかし、残りの8名は高度高血圧であるのに、まったく放置の状態にあった。

IV まとめ

- 井川町出稼者の20.6%は経営耕地をもたないものであり、70.9%は経営耕地が199a以下の零細農家の人たちである。
- 出稼目的は99%が生活資金を得るためであり、職種は道路建設作業が主体である。
- 30才以上の出稼者の29.5%に高血圧がみとめられた。
- 高血圧者の出稼先における受療状況についてみると、地元で行なわれている循環器検診を受診し、指導を受けている者は出稼先でも継続して受療しているものの率が高い。

しかし、地元での検診を受けない高血圧者の出稼先での受療率はきわめて低率であった。

文 献

- 1) 秋田県出稼対策室：昭和46年度出かせぎの実態
- 2) 秋田県産業労働部出稼対策室：昭和49年度出かせぎの実態
- 3) 児島三郎たち：井川村における循環器精密検診10年のまとめ，秋田県衛生科学研究所報，№17，83～90（1973）